土砂災害対応訓練

前回と同じく、トレンチ土留め訓練は前日に掘削して準備済み。



検索・掘削訓練でも同じく被災者を地中に埋設し準備済み。



訓練開始にあたって、現地の確認を行う第2班のメンバー。



同じく訓練開始に先立ち現地の確認を行う第1班のメンバー。



Aブース

トレンチ土留め訓練に使用する工夫された救護機材も準備完了。



探索・掘削訓練ヤードでも救護機材が揃えられています。





千葉県解体工事業協同組合:市原照公理事長挨拶



佐倉消防署:和田署長挨拶、訓練趣旨説明



八街消防署:後藤救助隊長、訓練実施要領説明



佐倉消防署長、組合幹部、後列には視察の議員の方々です。



訓練開始前、視察議員と談笑【平木先生、赤間先生、川畑先生】



訓練準備が終了、素早く各持ち場へ駆け足で移動です。



Bブースでは、トレンチ土留め訓練の隊員が整列。



いよいよ訓練開始。救護箇所の足場確保と親綱設備の設置。



トレンチ土留めの開始。周囲の安全確認とトレンチ建込み。



被災者の状態確認をしつつ、土留めの設置を進める。



一段目のパイプサポート設置で、トレンチ土留めの固定。



一刻も早く被災者救護に全員が一体になって行動しています。



チョットした気の緩みも許さず、大きな声で細部の確認実施。



視察の人達が見守る中、一つ一つ手順を確認しながら訓練が進む。



3段目のパイプサポートの設置も完了し被災者救護の開始。



まず、被災者に声を掛けながら、状態の把握に努めます。



地上の救護メンバーに被災者の状態を報告、救出方法の確認。



担架を投入し被災者を確保します。その間の声掛けも重要です。



ケガの状態も含めて健康状態の確認をしながら地上と連絡。



ゆっくりと地上に担架を引き上げて行きます。



地上の安全な場所に移動、この後は医療関係者への引継ぎ。



Aブースでも検索・掘削訓練開始前の準備が進んでいます。



被災者の埋没箇所の探査棒による検索が開始されました。



被災者を発見した模様、状態確認を進めると共に救護準備です。被災者の頭部位置から埋没エリアを想定、足場の確保をする。





掘削に伴う土砂流出や崩壊防止のための土留めの準備を進める。



掘削作業も被災者に影響を及ぼさないように慎重に進める。



被災者の安全確保のため、ヘルメットやプロテクターを装着。



被災者の安全を確保しながら、掘削作業を進めます



かなり被災者の身体部分の開放が進んでいるようです。



土砂から救出を試みますが、膝下が解放されていない模様です。



被災者の身体全体が解放、救出の準備を進めてゆきます。



救出用の担架を挿入、被災者の安全確保が進んでいます。





埋没箇所からの救出が無事完了、安全な場所への移動をします。 救護完了後の埋没箇所の状況です。設備も良く考えられています。 救出後の被災者モデルです。これで尊い一命が救われました。





救助隊長から説明を受ける、平木先生、赤間先生、川畑先生。



休憩を挟んで、第1班によるトレンチ土留めの訓練開始です。



しっかりと状況判断がなされ、動きに無駄がありません。



被災者防護の土留めもスムーズに設置完了、救出準備を進める。



土留めの固定確認や追加補強も逐次進めて行きます。



声を掛けながら被災者の状態確認と救出準備を進めて行きます。



追加のトレンチ土留めも設置完了、いよいよ被災者の救出です。



周囲の地山の状態も含めて設備等の安全確認を行います。



被災者を救出用担架に確保して、地上へと引上げ開始です。



慎重にも慎重を重ねて、ゆっくりと救出を進めて行きます。



無事、地上へと救出が完了しました。地下の隊員も一安心です。



地上では、いち早く安全な場所へ移動し医療救護に引継ぎます。 一命の救助任務が無事終了し、隊員たちも安堵の様子です。





第2班では、探索・掘削訓練がAブースで開始されています。



こちらの班も要領がしっかり理解され訓練に生きているようです。



掘削土のバケツリレー、被災者に気遣いながらの掘削状況。



きびきびとした動き短時間で被災者の確保救出ができました。



土砂災害対応訓練

訓練を無事に終えて、反省点や改善点などを意見交換します。



救出箇所(被災箇所)でも、改めて反省・改善点の意見交換です。



救出が無事終了した箇所、安全を考慮し埋め戻してあります。



被災者のヘルメット防護、頚椎のプロテクター防護。



訓練スケジュールを無事終了し、閉会式が開催されました。



市原理事長からは訓練の効果など、お褒めの言葉を頂きました。



千葉県解体工事業協同組合のメンバーと、後藤救助隊長。



救助隊長からは本日の訓練成果と今後の活動継続の意義の話。



最後に全員そろっての記念撮影、皆さんの表情には満足感があふれています。



近年の自然災害等の発生頻度を考えるとこの訓練が必ず生かされると確信できます。



今回の訓練も皆さん本当にお疲れ様でした。また、ありがとうございました。 人命尊重に基本理念に基づく日頃からの『防災意識』や『救護活動』が必ず役立つことをお祈り申し上げます。